

[様式 9 - 1]

## 福祉サービス等第三者評価結果

## 総合評価

受診施設名	桂ぶどうの木こども園	施設種別	幼保連携型認定こども園 (旧体系：保育所)
評価機関名	一般社団法人京都府保育協会		

平成29年12月 5日

総 評	<p>桂ぶどうの木こども園は、1949年に設立された歴史ある桂保育園の分園として2001年に開設し、2011年に保育園、2015年に幼保連携型認定こども園となりました。運営母体である社会福祉法人京都基督教福祉会は、1949年の保育園開園を発祥とし、開園と同時にキリスト教伝道も行っていました。今日では保育園、幼保連携型認定こども園だけでなく保育士養成校や障害児通所支援、特別養護老人ホームなどの多様な施設を持つ法人となり、それらの機能を有効に活用し地域に根ざした児童福祉施設として今日に至っています。</p> <p>保育方針は「キリスト教の教えに基づき、家庭保育を支えながら養護と教育を統一した保育の中で、“ともに育ちあう、神と人に愛される子どもに育つ”様、保護者と共に育てていくことを方針とします」を掲げ、モンテッソーリ教育を基盤とした子ども自身が、自分で考え、自分で行動できるよう保育環境を整備し、社会生活に必要な自主、自立、協調、共同などの精神が自然と芽生えるよう取り組んでいます。</p> <p>また、子育て支援事業として園庭開放や親子あそび、離乳食を作ってみる会などにも取り組み、子どもだけでなく、子どもと親、地域住民が様々な形で触れ合えるように努めています。</p> <p>園長と副園長を中心に、保育実践から保護者対応まで園の方針に沿ったものとなるよう職員と協同し取り組んでおり、指導計画や日々の保育内容の振り返りからも、その事が伺えました。職員の働く環境の改善にも取り組む意識があり、子どもたちが生活を送るこども園が、安心して過ごせる環境となるよう努めています。</p>
特に良かった点(※)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育課程を根拠計画として月案や週案を策定し、日誌も含めて、全ての計画の評価反省をクラス会議やグループ会議で実施しています。また、期ごとと年間の総括も実施し、その結果を次の計画策定に反映させています。前回の第三者評価結果も職員間で共有し、改善に繋げています。</li> <li>・ 毎年、職員個別の自己評価を実施し、その内容なども含めて管理者との職員面談を行っています。また、キャリアアップ体系表を作成し、研修プロジェクトチームによる園内研修の計画やOJTなども実施しています。法人内研修も行なっており、職員の教育・研修の機会の確保に努めています。</li> <li>・ 「選択自由あそび」として、自ら興味関心を持った年齢に応じた遊びに挑戦できる環境を整えています。はさみやのりなどの道具を使っての製作やカードやブロック遊びや、ホールでの運動遊びなどを通して基本的な生活習慣が自然と身につくよう取り組んでいます。</li> <li>・ 0歳児から2歳児は、安心して身近な大人とのかかわりが育めるよう、成長段階にあわせた生活ステージごとの保育内容を充実させ、保育者との信頼関係が築けるようにしています。</li> </ul>

特に改善が 望まれる点(※)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 職務分掌の内容が保育園に準ずるものとなっていますので、認定こども園の職務内容に対応したものにすると良いでしょう。</li><li>・ 保育課程については今後、幼保連携型認定こども園教育・保育要領で定められる全体的な計画として、保育所保育指針における保育課程、幼稚園教育要領における教育課程を含む内容となるため「教育・保育課程」などの名称に改められるとより良いでしょう。</li><li>・ 水防法で定められた避難確保計画を作成されると良いでしょう。</li></ul>
-------------------	--

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

## 京都府福祉サービス等第三者評価事業

【様式 9-2】

# 【保育所版】 評価結果対比シート

(注) 判断基準「a b c」について

【平成28年度以前の基準とは異なるため、当評価結果との対比はできませんのでご留意下さい】

(a)は質の向上を目指す際の目安となる状態、(b)は多くの施設・事業所の状態、(c)はb以上の取り組みとなることを期待する状態、に改定されました。改訂後の評価基準に基づいた評価では(b)が一般的な取り組み水準となり、従前に比べて(b)の対象範囲が広がります。また、改正前に(a)であった評価項目が改正後の再受診で(a)を得られなくなる可能性もあります。

受診施設名	桂ぶどうの木こども園
施設種別	幼保連携型認定こども園
評価機関名	一般社団法人京都府保育協会
訪問調査日	平成29年12月 5日

保育所評価基準 対比シート (H29年4月～)

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	通番	項番	評価細目	評価結果	
					自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	1	①	理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a	a
I-2 経営状況の把握	I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	2	①	事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	a
		3	②	経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	b	a
I-3 事業計画の策定	I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	4	①	中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	c	b
		5	②	中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	c	b
	I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。	6	①	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	c	b
		7	②	事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	b	b
I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組	I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	8	①	保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a	a
		9	②	評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a	a

[自由記述欄]

・保育の理念、基本方針、目標が明文化されており、入園のしおり(重要事項説明書)やホームページに明示されています。入園説明会等で保護者に説明し、職員会議で職員へも周知されています。

・地域の子育て家庭の就労の変化等に対応し、開園時間の延長や一時保育の展開、園庭開放などに取り組んでいます。

・単年度の事業計画は、収支計画と共に策定しており、その内容は地域の福祉ニーズに対応したものとなっています。3～5年を見通した中長期計画は、策定していますが、今後は、中長期計画を踏まえた収支計画を策定すると良いでしょう。

・単年度の事業計画は、年度開始前の3月開催の全体職員会議で話し合ったうえで策定し、毎年4月の職員会議にて、改めて全職員で確認し実践しています。また、その内容を保護者に配布しています。

・保育課程を根拠計画として月案や週案を策定し、日誌も含めて、全ての計画の評価反省をクラス会議やグループ会議で実施しています。また、期ごとと年間の総括も実施し、その結果を次の計画策定に反映させています。前回の第三者評価結果も職員間で共有し、改善に繋げています。

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-1 管理者の責任とリーダーシップ	II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。	10	① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b	b
		11	② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b	b
	II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	12	① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a	a
		13	② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	b	a
II-2 福祉人材の確保・育成	II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	14	① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b	a
		15	② 総合的な人事管理が行われている。	a	a
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	16	① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b	a
		II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	17	① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	18		② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a	a
	19		③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a	a
	II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。	20	① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a	a
	II-3 運営の透明性の確保	II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	21	① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
22			② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a	a
II-4 地域との交流、地域貢献	II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	23	① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a	a
		24	② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a	a
	II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。	25	① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a	a
		II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	26	① 保育所が有する機能を地域に還元している。	a
	27		② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a	a

[自由記述欄]

・施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っています。今後は、職務分掌の内容が保育園に準ずるものとなっておりますので、認定こども園の職務内容に対応したものと良いでしょう。

・行政通達などは、各保育室に1台設置しているパソコンで共有しています。今後は、福祉、雇用、労働関係の法令等も職員が確認できるよう工夫されると良いでしょう。

・「働き方改革」と称し、有給休暇を年間で計画し、取得促進に繋げたり、残業削減の啓発を行い、保護者にも理解してもらえるよう掲示するなど、働きやすい職場となるよう努めています。

・毎年、職員個別の自己評価を実施し、その内容なども含めて管理者との職員面談を行っています。また、キャリアアップ体系表を作成し、研修プロジェクトチームによる園内研修の計画やOJTなども実施しています。法人内研修も行っており、職員の教育・研修の機会の確保に努めています。

・管理者は、桂東学区と西京区の地域ネットワーク会議に出席し、普段から地域との関わりを持つ事で交流や連携が持てるよう取り組んでいます。

・地域の未就園児を持つ親を対象に年3回「離乳食をつくってみる会」を開催し、食に対する理解を深めてもらえるよう取り組んでいます。「おいでよ赤ちゃん」「ぶどうにあつまれ」などの親子クラブや、園庭開放も毎週実施しています。また、卒園児を対象に毎年、飯ごう炊飯遠足を開催し卒園児100名ほどを連れて行きます。

**Ⅲ 適切な福祉サービスの実施**

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果		
				自己評価	第三者評価	
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	28	① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	a	
		29	② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	a	a	
	Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。	30	① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a	a	
		31	② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a	a	
		32	③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	a	a	
	Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	33	① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a	a	
		34	② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	b	a	
		35	③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	a	
	Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。	36	① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a	a	
		37	② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b	a	
		38	③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b	b	
		39	④ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	a	a	
	Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。	40	① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	a	a
			41	② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	a
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		42	① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	a	a	
		43	② 定期的な指導計画の評価・見直しを行っている。	a	a	
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		44	① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a	a	
		45	② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a	a	

**[自由記述欄]**

・個人情報保護に関するマニュアルがあり園内研修を実施しています。園に必要なマニュアル類を綴じたマニュアルブックを、毎年、全職員に配布しています。

・園見学は、1回1組だけを園長が直接案内しており、保護者の質問やニーズに応えられるよう取り組んでいます。入園時には入園のしおりをもとに運営内容を説明し、同意書をもらうようにしています。

・年2回、保護者アンケートを実施し、意見や要望を述べやすい工夫し、それに対する回答を保護者に配布すると共に保育内容に反映するようにしています。

・ヒヤリハット報告書を作成し、その内容を京都市保育園連盟に伝えています。それらの内容は、事例報告集としてまとめられ園に配布されます。感染症などについても発生時には毎日のミーティングでの情報共有と共に、発生状況と予防内容を掲示し、保護者に周知しています。今後は、水防法で定められた避難確保計画を作成されると良いでしょう。

・保育課程に基づき年間指導計画、各種短期指導計画を策定し、それらと日誌を含めて評価反省を行い、その内容を保育課程に反映させるよう取り組んでおり、PDCAの流れを充実させています。

A-1 保育内容

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-1 (1) 保育課程の編成	46	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a	a
		A-1-1 (2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	47	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a
	48		② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b	b
	49		③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a	a
	50		④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a	a
	51		⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
	52		⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
	53		⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
	54		⑧ 障害のある子どもが安心して生活でき喜んで遊べる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b	a
	55		⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
	56		⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a	a
	A-1-1 (3) 健康管理	57	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	b	a
		58	② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a	a
		59	③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a	a
	A-1-1 (4) 食事	60	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a	a
		61	② 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている。	a	a

【自由記述欄】

・保育課程は、日々の生活は異年齢をベースに、設定保育や教育活動の一部は年齢別をベースに編成し、0歳から6歳まで一貫性のある内容となるよう話し合っ  
て作成しています。保育課程については今後、幼保連携型認定こども園教育・保育要領で定められる全体的な計画として、保育所保育指針における保育課程、  
幼稚園教育要領における教育課程を含む内容となるため「教育・保育課程」などの名称に改められるとより良いでしょう。

・一人一人の子どもの状態に応じた保育を行っており、会議などでも職員が共通の意識を持って取り組めるようにしていますが管理者は、まだまだ十分では無い  
と考えており、より丁寧な子どものかかわりが進められるよう努めています。

・「選択自由あそび」として、自ら興味関心を持った年齢に応じた遊びに挑戦できる環境を整えています。はさみやのりなどの道具を使つての制作やカードやブ  
ロック遊びや、ホールでの運動遊びなどを通して基本的な生活習慣が自然と身につくよう取り組んでいます。

・0歳児は、「安心できる身近な大人との生活の中で身の回りのものに興味をしめし、触れて、見て、聞いて体を動かして遊ぶ」を保育目標に、2歳児まで成長段階  
にあわせた生活ステージごとの保育内容を充実させ、保育者との信頼関係が築けるようにしています。3歳児から5歳児は、異年齢での縦割りグループを基盤と  
し、一人一人の子どもが自ら選択して遊べる環境を大切に保育を実践しています。

・障害のある子を持つ親の会があり、保育の様子や課題として取り組んでいること、家庭での様子などを親同士でも共有できる環境があります。

・近隣の小学一年生と年数回交流事業を行っています。また、就学にむけて「子育て座談会」を開き、卒園児の1,2年生の保護者から話を聞く機会を設けていま

・園の中心に調理室があり、常に子どもたちから調理している様子が見える場所にままごとコーナーを設置し、自然と真似をしながら楽しめる環境があります。園  
庭での野菜栽培からクッキング保育での調理手伝いなどの取り組みと共に、毎日の給食手伝いで園児がかかわるようにし、食材や調理、食べることに興味を持  
てるよう工夫しています。

A-2 子育て支援

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-2 子育て支援	A-2-(1) 家庭との緊密な連携	62	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a	a
	A-2-(2) 保護者等の支援	63	① 保護者等が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a	a
		64	② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a	a
	A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	65	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a	a

[自由記述欄]

- ・クラス懇談会を年3回開催、個人面談を年1回開催し、家庭との連携を大切にしています。それらの内容は適切に記録され、保育内容に活かされています。
- ・職員は個別の自己評価を年2回実施しており、自身の取り組み内容の振り返りや課題について評価や反省を行い、管理者との面談では、その自己評価をもとに話し合い、より良い保育内容となるよう努めています。